

## 武雄市立武雄中学校学校便り

# 叶武



NO. 22 令和3年2月10日  
〒843-0024  
武雄市武雄町大字富岡11606番地  
TEL 0954-22-4105  
文責 校長 熊野辰未

学校教育目標 「高い志と誇りを持ち、心豊かで輝く生徒の育成」

### 《その場になくてはならない人に「一隅を照らす」》

みなさんは、伝教大師最澄（さいちょう）という人を知っていますか？社会の授業で習ったかもしれません。平安時代に中国に渡り仏教を学び帰国後、比叡山延暦寺を建てた人で天台宗の開祖です。その最澄の言葉に「古人言（いわ）く、径寸（けいすん）十枚、これ国宝に非（あら）ず、一隅を照らす、これ則（すなわ）ち国宝なり」という言葉があります。中国の春秋時代の話ですが、魏の王が、「私の国には直径一寸ほどの強い光を放つ玉が十枚あって、車の前後を照らします。これが国の宝です。」すると斉の王が答えました。「私の国にはそんな玉はありません。しかし、それぞれの一隅をしっかりと守っている人材がいます。それぞれが自分の守る一隅を照らせば、車の前後どころか、千里を照らします。これこそが国の宝です。」と。

すなわち「お金や財宝は国の宝ではなく、家庭や職場など、自分自身が置かれたその場所で精一杯努力し、明るく光り輝くことのできる人こそ何物にも代えがたい貴い国の宝である。」という意味です。一人一人がそれぞれの持ち場、立場で全力を尽くすことによって、社会全体が明るく照らされていくという意味です。

これに感銘した思想家・教育者で歴代の首相も師と仰ぎ「平成」の元号の考案者でもある安岡正篤（やすおかまさひろ）氏は「一つのことを何十年と継続していけば、必ずものになる。別に偉い人になる必要はないではないか。社会のどこにあっても、その立場立場においてなくてはならぬ人になる。その仕事を通じて、世のため人のために貢献する。そういう生き方を考えなければならない。」との見解を述べています。

「人は、誰でも、何らかの使命を果たすために、この世に生まれてきた。」とよく言われます。また、周囲の人の意見が気になって、ためらい迷ったり、人をうらやんだり、自分を卑下するのではなく、「自分の持ち場で自分の役割に徹すればいい仕事ができる。」と言われます。一人一人がそれぞれの持ち場で一隅を照らせば、全体を明るく照らすことが出来るものと思います。みなさんが、将来生きがいを感じながら、自分を信じて自分の場所で充実した生活を送ることができるようになるための基礎を今の中学校生活で養っているものと思います。「一隅（いちぐう）を照らす」